

放牧草地に生息する野生哺乳動物



TSUKADA Hideharu
塚田 英晴
放牧管理部 行動管理研究室

放牧草地と聞くと、のんびりとウシが草をはむイメージを思い浮かべることが一般的かもしれませんが。ところがウシ以外の生き物に目を向けてみると、意外な野生動物が草地を利用していることに気づくでしょう。草地の持つそんな多面的機能の一端を明らかにするため、我々の研究室では、草地にどんな野生動物が生息しているのか、家畜を放牧することによって野生動物にどのような影響を及ぼしているのかを調べています。

一昨年から昨年にかけて、栃木県北部の11ヶ所の公共草地と研究所内の2ヶ所の草地でワナによる野生哺乳動物の捕獲調査と自動撮影装置(通称:パラッチカメラ)による写真撮影調査を行いました。その結果、合計7種(ハタネズミ、カヤネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ジネズミ、ヒミズ、イタチ)の小型哺乳類を捕獲し、14種類もの中大型哺乳類(ツキノワグマ、ニホンジカ、キツネ、タヌキ、ホンドテン、

イタチ、ノウサギなど)の姿を撮影することができました。さらに、放牧地で捕獲できる小型哺乳類の種類は、ウシがたくさん放牧されている所では少なくなりますが、これは、ウシに食べられて草の高さが低くなるためであることがわかりました。おそらく草が低くなると小型哺乳類の隠れ場所が少なくなってしまうからなのでしょう。

草地には、この様に数多くの野生動物が生息していることがわかりましたが、家畜による草地の利用とこれら野生動物相との関係にはまだまだわからないことが多く、草地に生える草の種類や周辺の森林の配置との関係など、さらに多くの知見を積み重ねることが必要です。草地でウシを育てながら、その一方で多様な生物相を維持し、草地の多面的機能を発揮することに貢献する、そんな複眼的な視野から研究に取り組んでいます。

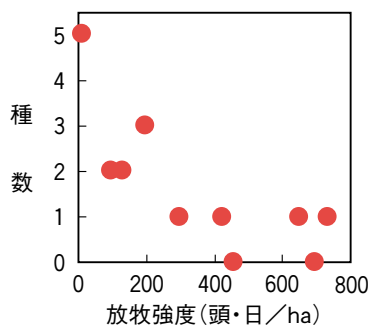


図1 草地で捕獲された小型哺乳類の種類と放牧強度との関係

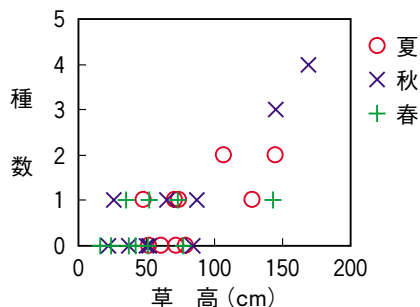


図2 草地で捕獲された小型哺乳類の種類と捕獲地点の草高との関係



写真1
キツネは草地に現れる代表的な野生動物です



写真2
ノウサギも草地では普通に見られます



写真3
こんな珍客も草地には現れます
(ツキノワグマ)